

日交研シリーズ A-601

平成 25 年度自主研究

ロジスティクスから見た商取引活動と都市内物流の相互関係に関する研究

刊行：2014 年 8 月

ロジスティクスから見た商取引活動と都市内物流の相互関係に関する研究

A Study on the Relationship between Business Transaction and Urban Goods Movement, at the View Point of Logistics

主査 苦瀬博仁（東京海洋大学）

Hirohito Kuse

要 旨

商取引活動と物資流動をロジスティクスの視点で見ると、物資流動は、商取引活動の派生需要となる。そのため、物資流動に必要な道路交通ネットワークや物流施設は、商取引活動の影響を受けることとなる。すなわち、効率的なロジスティクス活動を実現するためには、物資流動の効率化だけを考えるのではなく、商取引活動を含めた効率化を検討する必要がある。同様に、道路交通ネットワークや物流施設を計画する場合は、商取引活動の実態を踏まえたうえでの計画が重要となる。

そこで本研究では、ロジスティクスに着目し、商取引活動と物資流動の相互関係の概念を整理した後に、商取引活動の実態と都市内物流の実態を明らかにし、ロジスティクスから見た商取引活動と物資流動の相互関係を明らかにすることを目的とする。

具体的には、下記の手順にそって研究を進めた。

1 章の『流通を構成する商流と物流』では、ロジスティクスにおける商流と物流の定義とともに、商流チャンネルとロジスティクス、および物流チャンネルとロジスティクスの内容を示した。

2 章の『物流アウトソーシングと 3PL』では、企業物流の担い手の変遷を示した後に、輸送と保管のアウトソーシングの実態を示し、ロジスティクスと 3PL の関係性のもとに 3PL の特徴を示した。

3 章の『国際立地とサプライチェーンのシームレス化』では、日本企業の海外への進出・撤退の実態を示すとともに、通関制度や情報システムの変化によるサプライチェーンのシームレス化の進展を、事例をもとに示した。

4 章の『物資流動調査のデータを用いた物流チャンネル分析に基づく物流施設計画』では、品目別の施設間と業種間の物流チャンネル分析を通じて、物流チャンネル分析の物流施設計画への利用可能性について検討した。

5 章の『貨物車プローブデータの都市内物流分析の可能性』では、貨物車のプローブデータを活用した分析の事例を示すことで、都市内物流分析の可能性について示した。

6 章の『SCM に関する論点整理』では、文献レビューをもとに、本研究におけるサプライチェーンと SCM を定義した。

キーワード：ロジスティクス、商取引活動、都市内物流

Keywords： Logistics、Business Transaction、Urban Goods Movement